



ゆかり通信

VOL. 322

令和 6 年 11 月

SENSHOJI YUKARI NEWSLETTER

1994-2024

北海道千歳市清水町1-14 鶴寶山 千正寺

TEL: 0123-23-2442 FAX: 0123-24-9883

ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2024年千正寺カレンダー 11月の言葉



千正寺報恩講・万灯会

親の恩は返せるものではない。
だからもらいっぱなしでいい。
でも、拝む心を大事にしている人は、
その恩を深くかみしめる事ができる。

今月のお言葉は特に有名な方の言葉というのではないようですが、思わず納得してしまいますよね。ところで皆さんは「報恩」、つまり恩に報いることと「恩返し」は少し意味合いが違うことに気づいていますでしょうか。

「恩返し」は、受けた恩に報いることを意味する言葉ではありますが、恩をくれた人にお返しする1対1のやり取りを指します。恩を受けたからには返したいという気持ちはわかりますが、よくよく「恩」というものを考えてみると、それは簡単に返せるものなのでしょうか。

容易に受けたり返したり出来るものは「恩」とは言わずに、「貸し借り」という言葉ですみます。一般的には「恩返し」の方が使われる機会が多いと思いますが、意味合いや気持ち的には「報恩」という言葉の方が合っているように思えます。

辞典によりますと

『恩とは、他の人から与えられた恵み、いつくしみのこと。』とあります。与えられた恵みだけなら「貸し」としてもいいでしょうが、形だけではなく、そこには私のことを思う、何事にも代えがたい気持ちも一緒に与えて下さっている。その「いつくしみ」の心がついてくることで「恩」になるのだと思います。そして返せないものならば、私たちはその恩をずっと忘れずに報いることが大切になってきます。

さて、今年も千正寺では今月の5日から3日間報恩講がお勤めされます。報恩講とは私たちのことを思い、ずっと寄り添ってくれている阿弥陀様の存在を浄土真宗という形であらわしてくれてた親鸞聖人様へのご恩に報いさせていただく法要です。沢山の方がお越しになる法要ですので、久しくお寺に行っていないなあと思っている方がいましたらこの機会にどうぞお参りくださいませ。

(本文：行武秀明法務員)